

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
57	川崎市立東高津小学校	渡部 伸一

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
考えよう やってみよう みんなの本気が明日への一歩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も相手も大切にする子</li> <li>・夢や希望をもって一生懸命に取り組む子</li> <li>・自ら学び、自ら考え、互いに高め合う子</li> <li>・自分らしく健康な子</li> <li>・地域とつながり貢献する子</li> </ul>	A多様な価値観を認め合い自分も相手も大切にしよう Bよりよい人間関係、社会参画、自己実現を目指そう C主体的、対話的で深い学びを実現しよう D誰もが自分らしく安心して心身を育む環境をつくらう E安全に地域と共に歩む学校づくりをしよう

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 A多様な価値観を認め合い自分も相手も大切にしよう	①子ども一人一人の自己肯定感、有用感を高め、自信をもって生きていく姿勢や、互いの人権を尊重する心豊かな子どもを育てる。 ②「なりたい自分」を大切に、人としての在り方生き方の軸を大切にしていけることを通して、様々な問題を乗り越えられる生きる力を育てる。 ③自分のめざす「ひがたかつ子」になるための目標設定や振り返り等を行い、「キャリア在り方生き方教育」の推進を図る。 ④共生＊共育プログラムを推進し、互いに認め合い、助け合い、譲り合う心情と態度を育てる。	①人権担当者など参加した研修の内容を報告したり、資料を共有したりして教職員に共通理解を図った。人権に関する考え方や授業の教材を授業に活用できた。人権週間や学校公開日に合わせて授業公開し保護者にも人権教育の取り組みを伝えることができた。 ②学期はじめに目標を立て、振り返りを行った。年間を通して「なりたい自分」に向けて努力する気持ちを大切にすることができた。運動会や学習発表の日など行事ごとに目標を立てて、めあてをもって活動に取り組むことができた。各学年計画的に進めることができた。 ③各学年キャリアパスポートに綴じるページを決めて保護者のコメントを記入し次年度に引き継いでいけるようにした。学校だよりの裏面を使って、共生＊教育やキャリア教育の実践の様子やねらいについてを知らせ保護者への理解を図った。キャリアノートでは、低、中、高で行う内容の計画を立て2年間で計画的に取り組めるようにできた。 ④年間を通して、プログラムの実施と測定を進めていけるように計画にそって実践した。抑うつなどの新しく入ってきた項目の解釈についても理解が定着してきた。	①教育課程の中に人権意識を高めていける授業ができるように人権教育年間計画を作成している。見やすさ、計画の立てやすさも含めて、様式を検討し来年度さらに推進できるようにしていく。2月に6年生で人権移動教室を行った。外部講師の授業実践も積極的に取り入れたい。コロナ5類以降、人権教育、ジェンダー、交流等、人権教育の実践や研修の幅が広がった。来年度もさらに広げていく。 ②キャリア在り方生き方教育の年間指導計画を作成した。今年度の反省を生かして来年度もさらに計画的に進めていきたい。 ③生活科、社会科、総合的な学習の時間など2、3、4年生の地域学習を、キャリア教育に位置付けていけるようにする。夢教育での実施を含めて計画的に行っていきたい。来年度への引き継ぎもていねいに行う。市制100周年に向けて、今年度の実践を振り返りながらPTAと協力しながら計画を立てていけるようにしたい。 ④抑うつに対するの解釈について児童指導と連携しながらより生かしていけるようにする。D部会の内容に関するものも多いので、共生＊共育はD部会で扱うことも検討したい。研究した今年度の実践を次年度につなげる。

2	<p>B よりよい人間関係、社会参画、自己実現を目指す</p>	<p>①よりよい生活を送るために、目標を立て、その目標に向かって努力する子どもを育てる。      ②「自分が」や「自分たちが」と本気になる対象を見つけ、子どもたちが主体的に考えて行動に移せるように、一人一人の意見を聞いたり、伝えたりする場を設ける。      ③挨拶やきまり、社会のマナー等の大切さを知り、進んで守ろうとする子どもを育てる。      ④学校生活をより豊かなものにするために、学校や学年、学級といった集団全体を見て、自分ができるところをしようとする子どもを育てる。(実行委員や係活動など)      ⑤子どもの意見が反映されるように委員会活動やクラブ活動での話し合いを充実させ、連携し合ってよりよい学校をつくる場を設定する。      ⑥子どもの心身を育む食育の推進、病気や怪我の予防等に関する健康教育を推進する。</p>	<p>①代表委員会を中休みの時間内に行うことができた。代表委員会で話し合った内容や決まったことを代表委員がペア学年の1～3年生に伝えたりTV集会で知らせたりすることで、全校で取り組む活動を推進した。学年目標、各学年で子どもの思いを大切に、学校目標を意識しながら学年目標・学級目標を作成した。教室などに掲示し、意識できるようにした。      ②感染状況を踏まえ、1年生と6年生は体育館で、他の学年は教室で発表を見る形にした。相手意識や目的意識をもって練習や発表ができた。連合音楽会や学習発表の予行練習をペア学年に見てもらいなど、ペア学年との交流を大切に活動に取り組むことができた。      ③学年学級における指導の継続。教師からも積極的にあいさつをする習慣をもつことができた。1年「歩行教室」、3年「自転車教室」などの活動を通して、公共のマナーやルールを身に付けさせることができた。「やさしさパワーアップ作戦」や「かめさんぼ作戦」など、学校生活の中で児童自身が大切にしたいと思うことを、代表委員会の活動を通して考え、前期・後期の年2回、全校児童で一丸となって取り組むことができた。      ④学年、学級の実態に応じて学級目標を意識した子どもたちの自主的な係活動で学級作りを行った。      ⑤各委員会の役割を意識し、創意工夫をしながら学校をよりよくしていくための取り組みを考えた。集会等を通して全校に取組みを広報し、自主的な活動を行うことができた。異学年交流ができるように配慮した活動ができた。振り返りカードの振り返りの視点を国研の資料や学習指導要領から作成し、それに基づいて評価を行えるようにした。      ⑥学年と食育(特活)の学習を行い、学校だよりや給食だよりで啓もうしていくことができた。1年と手洗いの学習を行い、きれいに手を洗うことの大切さを伝えていくことができた。</p>	<p>①代表委員会の時間内に話し合いを終えることができるよう、事前の準備をさらに1～3年生への周知は今年度同様行っていく。      ②感染状況によるが、全学年が体育館に集まって発表を見る形に戻すことで相手意識や目的意識をさらに高めていけるようにする。      ③今後も計画的、継続的な指導をする。児童会で決定した全校へ取り組みを来年度も行う。      ④学年、学級の実態に応じて学級目標を意識した子どもたちの自主的な係活動で学級作りを続けていく。実行委員で今年度取り組んだことを来年度にも生かせるように、確認していく。      ⑤委員会活動、クラブ活動の年間評価に関して、職員間で共通理解を図りめあてを意識した活動を大切にできるようにする。      ⑥今後も学年と食育(特活)の学習を行い、学校だよりや給食だよりで啓もうしていく。年度初めに食育の授業について確認して各学年で計画的に行えるようにする。</p>
3	<p>C 主体的、対話的で深い学びを実現しよう</p>	<p>①学校教育目標の実現に向けて、校内研究を通して、協力して教材研究を行い、授業を公開することで互いに学び合い、授業力の向上を目指す。      ②研究を通して育てたい力を明確にし、育成を目指す。      ③学年ごとに研究の視点となる「めざす子どもの姿」を明確にして取り組む。      ④校内研究「国語科」を通して、「聴く」「話す」力を育てていく。令和5・6年度 国語科研究推進校</p>	<p>①6月27日、7月13日に講師を招いて実施した研修会を通して、日頃の授業で意識したいことや今後の課題等が見えてきた。3回の授業研を通して、授業の中での工夫だけでなく、日常的な話す・聴く指導や語彙を増やす取り組みも必要だという課題が見えた。      ②学年研究日を活用し、研究テーマやサブテーマ、各学年で目指す子ども像などについて、話し合うことができた。本時の視点を明らかにして、授業を参観するようになった。その視点に沿って研究協議を進めていくことで、効果的な手立てについて理解を深めることができた。      ③学年研究日を設定し、教材研究を学年で行い授業の進め方等について話し合うことができた。国語科だけにとどまらずどの教科・領域でも使える手立てや工夫についても学んでいけるようにした。      ④1年間研究していたことを紀要にまとめ、CDRに保存して全教員に配付したワークシート等の参考資料をデータを加工して使えるようにした。成果や課題について整理し、次年度の研究の方向性を示すことができた。</p>	<p>①授業研だけでなく、「話す・聴くステップシート」を用いて全ての教育活動を通して「話す・聴く」姿勢を身に付けさせていくことや、ひがたかタイムに「ことばのじかん」として語彙を増やしていく取り組みを行う。今年度の研究を生かしながら、学校教育目標を実現させるための手立てを明確にし、さらなる授業力向上を目指す。      ②授業を参観する際の視点は引き続き設定し、話し合いが深まるようにしていく。今年度の研究を生かしながら、さらに子どもが主体的に学習を進めていけるような問題解決学習の在り方・手立て・支援などについて研究を深めていく。      ③引き続き、学年研究日や学年会の時間を確保することで、授業の進め方や研究について話し合う機会を作っていく。今年度の研究を生かしながら、他教科との連携を意識しつつ、各学年の目指す子ども像を具体的に意識したり、学年間のつながりを考えたりしながら、さらに研究を深めていく。      ④来年度は国語科研究推進校の本発表。今年度の研究を生かして公開授業を行う。</p>

4	<p>D 誰もが自分らしく安心して心身を育む環境をつくろう</p>	<p>①子どもの声に耳を傾け、面談の時間を確保し、いじめ・不登校の未然防止に努め、全教職員での声かけや居場所づくり、チームでの対応を行う。  ②対人関係等で困り感があったり個別に支援が必要だったりする子どもたちに対して個に応じた支援を充実させる。  ③学年・学校全体で子どもたちにかかわることを意識し、全教職員による児童理解の上に立った児童指導・支援の体制を充実させる。  ④保護者や地域の方が話しやすいように心がけ、全教職員で連携して、教育相談体制の充実を図る。  ⑤スクールカウンセラーと協力して、児童理解や教育相談を充実させていく。</p>	<p>①6月と11月の2回、学校生活アンケートを実施した。アンケート回収後は、担任が児童全員と個別に話を聞いた。いじめ以外の悩みについても聞くことができた。「いじめ防止対策基本方針」は、職員会の時間に研修を行い、未然防止・早期発見・早期対応について伝えた。  ②学年会で共有した児童理解の内容を、D部会のファイルに入力できるようにした。また、そのファイルの存在を全体に伝え、D部会のメンバー以外でも自由に見ることができるようにした。打ち合わせ内の児童理解報告ではどのような児童を報告するのか、具体的に事例を伝えるようにした。今年度は、今まで使っていた引継ぎ支援シートを活用する。来年度については、これから検討する。  ③11月の1か月間、おたすけカードとおたすけボックスを設置して、児童が気軽に相談できるようにした。生活目標の振り返りの掲示が、締め切り日までに全クラスが揃わない。年間の生活目標の振り返りの回数を年に2回(前期と後期の終わり)にするのはどうか。月の生活目標の用紙を1年分まとめて印刷をして、4月に渡した。  ④学校教育相談で放課後等デイサービスを紹介することができ、ニーズのある家庭を繋げることができた。また、放課後等デイサービスとの情報共有を図り、連携して支援の在り方を考えることができた。通級指導教室で行っているセンター的機能を活用し、困り感ある児童の支援についてアドバイスをもらった。  ⑤担任が直接学校巡回カウンセラーと会話ができるように、学校巡回カウンセラーの校内巡回の時間を作るようにした。COと学校巡回カウンセラーの情報共有は、授業時間に行うようにして、放課後はできるだけ担任と学校巡回カウンセラーが情報共有する時間になるように工夫した。保護者面談については、担任と情報を共有し対応を考えた。</p>	<p>①来年度も計画的に学校生活アンケートを行い、個別面談をして子どもが抱える問題に向き合う体制を取れるようにする。教育的ニーズのある児童については学年での共通理解を大切にしチームで指導に当たれるようにする。  ②来年度は部会のメンバーでも困り感のある児童の対応も考えるようにする。C4thの「いいことみつけ」の活用について検討する。  ③来年度も、人権週間のある11月におたすけボックスを設置する。年間の生活目標の振り返り方を見直す。月の生活目標の用紙は、4月に1年分まとめて印刷をして渡し計画的に行えるようにする。  ④通級指導教室のセンター的機能、総合教育センターなどを活用し、困り感のある児童の支援について考えた。今後も通級のセンター的機能とは何か、全体にも伝え周知活用を図る。  ⑤学校巡回カウンセラーが、校内を巡回する時間もとれるように計画をする。また、児童だけではなく、大人にも話しかけてもらえるようお願いをする。</p>
5	<p>E 安全に地域と共に歩む学校づくりをしよう</p>	<p>①授業参観や学校・学年行事等を公開し、学校ホームページ、学校・学年だより、懇談会等の充実に努め、積極的に情報の発信を行う。  ②安全な学校生活が送れるように保護者・地域と連携し危機管理意識を高めると共に、子ども自らが命を守る防災・防犯教育を推進する。  ③情報機器等の危険を意識して利用する情報モラル教育を家庭・地域と連携して推進する。</p>	<p>①毎月、ホームページで学年だよりの裏面を掲載し、子ども達の様子を知らせることができた。一方で、学年だよりを毎月データで掲載してもよいのではないかという声もある。平時の持ち帰りについては、学校全体で検討し、1月より学年に応じた持ち帰りとした。今後も保護者の理解を得ながら持ち帰りを実施していく必要がある。  ②様々なシチュエーションで行っている避難訓練や歩行訓練、自転車安全教室、不審者対応訓練の様子をホームページにて掲載し、知らせていくことができた。  ③後期からは平時の持ち帰りを実施し、それに伴って全校や各クラスで端末の使い方についての指導を再度行うことができた。一方で、端末の使い方についての指導が多く、情報モラルについては子ども達に伝える機会が少なかった。</p>	<p>①来年度も引き続き、ホームページへの学校生活の様子と、GIGA端末の持ち帰りを実施していきたい。ホームページに掲載するイラストの著作権の曖昧なものには注意していく。  ②年間の訓練や行事について、すべてはアップできなかったが、主要な訓練はアップした。来年度はより多くの訓練の情報について伝えていきたい。  ③年度初めにGIGA端末を使う際の約束を児童に確認したい。4月の懇談会の際にも全学年情報モラルについて保護者と共有できるようにしたい。</p>

6	学校における働き方改革に関する取り組み	勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間の割振り変更を行ったことで、柔軟に会議や打合せの時間を設定できるようになった。</li> <li>・会議時間の短縮を図るために、校務支援システムを活用した職員会議を試験的に今年度取り入れた。その結果、職員会議の時間短縮につながり、職員の休憩休息の確保がおこなうことができた。</li> <li>・どうしても会議等の時間が伸びてしまうことがあった。その際の振替などが明確でなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も試験的に行っていた校務支援システムをつかった職員会議を継続して行うことで、会議の時間短縮につなげていった。</li> <li>・基本的には会議等が伸びないように計画的に行っていくが、会議が伸びてしまったときの振替の取り方などを明確にしていきたい。</li> </ul>
---	---------------------	--------------------------------	---	--

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東高津小学校の教育活動について、理解することができました。子どもたちの活動報告に感動しました。</li> <li>・子どもたちの活動報告の中で、学校での生活の様子、勉強のこと、友だちとの関わり、地域の防災意識などを教えていただきました。</li> <li>・子どもたちからいろいろと学ぶことができました。「やさしさパワーアップ作戦」の取組を参考にさせていただきます。</li> <li>・挨拶がきちんとできる子どもたちで、とても感心しました。</li> <li>・1年生から6年生まで、各学年ごとの特徴のある発表でした。元気に一生懸命に発表していました。児童のアンケートにありました、みんなの前で話すのが苦手な人はいくつになってもいます。日本人は、身内なら良いけど、特に、他人の大勢の前で話すのは上手ではないと思います。でも、先生方のご指導により、皆さん立派でした。</li> <li>・学年での取り組みが、もう少しみることでよかったです。報告の中身が個人的な活動になっていたのでは？</li> <li>・アンケート集計について、児童、保護者、教職員との関係をもう少し工夫してみてもいいかと思います。</li> <li>・校庭プロジェクトは、今後の課題として活用の方法を具体的に考えてみてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の反省をもとに、年間を通して、計画的にかつ円滑に学校運営を進めることができるように、教職員で情報共有をしっかりとおこなっていききたい。</li> <li>・人権尊重教育を基盤として、子ども同士が自分を大切にする、友達や周りの人を大切にする心を育てていきたい。また、教職員同士の人間関係も大切になってくる。忙しい中ではあるが、互いを尊重し、コミュニケーションをとりながら学年・学級経営を進めていけるようにしていきたい。また、多様性を尊重するために、LGBTQや国際理解等の研修も行っていきたい。</li> <li>・キャリア教育とも関連させていながら、地域を愛する心を育てていきたい。地域副読本を活用した授業実践を構築しながら、地域教材をさらに充実させていけるようにしていく。</li> <li>・異学年やペア学年の交流を通して、相手意識や目的意識を高めていきたい。</li> <li>・児童会を中心に、子どもたちの主体性を大切に、より良い学校を創るための全校での取り組みを続けていきたい。</li> <li>・国語科の研究推進校として授業実践を行い、子どもたちに「話す力」「聴く力」をつけていきたい。また、この研究で培った力を他の学習や活動に生かすことができるようにしていきたい。</li> <li>・学校生活アンケートを行い、個別に面談を実施することで、子どもの抱える問題に向き合う体制が取れるようにする。また、教育的ニーズのある児童については、学年で情報共有しながらチームで対応できるようにしていく。</li> <li>・GIGA端末の積極的な活用を行う。また、学校ホームページを有効に使用して、子どもたちの様子を発信していく。</li> </ul>